

# ἔσχατη ἡμέρα

エスカター ヘーメラ

知っておきたいキリスト教のことば (32)

終わりの日 おわりのひ

みなさんは「終わりの日」というと、何を思い浮かべるでしょうか。パニック映画の中には、「人類滅亡の日」や「地球最後の日」を描くもの(最後は主人公が人々を救いますが)があります。そのせいか、「終わりの日」というと、とても暗いイメージで捉えられがちです。

また一部のキリスト教を含む様々な宗教やグループの中には、「終わりの日」が近いということを強調して、人々を不安に煽ったり、「正しい行い」をするように強いる人たちもいます。

それでは聖書は「終わりの日」について、どのように言っているのでしょうか。イエス様はヨハネ福音書の中で、「終わりの日」に言及しています。すなわち、神さまのみ心は、イエス様を信じる人が、イエス様によって「終わりの日」に復活させられ、永遠の命を与えられることだということです。

この言葉をきちんと読んだときに、わたしたちに与えられるものは恐怖や恐れなどではなく、喜びであり、希望なのではないでしょうか。

神さまが「終わりの日」に世界を審判する様子は、多くの画家によって描かれました。右上のメモリンクの他にもルーベンスやアンジェリコ、ミケランジャロなどの作品をご覧になった方も多いでしょう。これらの作品に共通しているのは、救われる人と救われない人が対比して描かれているということです。マタイ 25 章 31 節～46 節などを読むと、そのようにも感じます。

しかし他方で、イエス様が「わたしに与えてくださった人を一人も失わないで」と言われていることも、ぜひ心に留めて欲しいと思います。「終わりの日」はわたしたちにとってすべてがなくなってしまう時ではなく新しい始まりなのです。

次回は「恩恵」です。お楽しみに。



「公審判」

ハンス・メモリンク (1433～1494 年)

わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。

(ヨハネによる福音書 6 章 40 節)

